



# 普及だより



— 第122号 —

発行

最上総合支庁産業経済部  
農業技術普及課

〒996-0002 新庄市金沢字大道上2034

TEL (0233)29-1322

FAX (0233)22-2026

E-mail:ymogaminofu@pref.yamagata.jp

## 力を合わせ、課題解決を進めます



トルコぎきょう圃場巡回 (令和3年7月)  
立枯病対策に取り組んで3年目。被害が減少し、出荷数量・販売額ともに増加しました。今年も一層の生産性向上に向けて支援します。

## 足腰の強い農業の実現を支援します

課長 柴田 康志

新緑の香りがすがすがしい季節になり、今年も春作業が本格化してまいりました。

「持続可能な開発目標 (SDGs)」の実現に向けて様々な取組みがなされ、農業においても国では「みどりの食料システム戦略」を示し、県では「やまがた・人と環境に優しい持続可能な農業推進計画」で環境保全型農業の取組みを更に強力に進める方向性を示しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大などで消費の減退、農産物価格の低下、生産資材の高騰など多くの課題に直面している中で、生産コストを抑えて、環境に配慮しながら生産性を上げる取組みが一層重要となっています。

こうした中で、様々な情勢変化に対応できる足腰の強い農業を実現するため、農業技術普及課・産地研究室では、今後も関係機関の方々とともに、新規就農者、女性農業者や大規模経営者など多様な担い手を支援し、最上地域の特色ある農産物の産地を育成してまいります。また、地域の持続的な発展を支援し、人と環境にやさしい農業を推進するとともに、魅力ある稼げる農業を追求してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





# 普及活動トピックス

## 気象変動に負けない「つや姫」の高品質・良食味安定生産を推進します

昨年は、7月の高温や8月の低温・日照不足があったものの、生産者の皆様の努力により作柄は良く、水稻の作況指数も103の「やや良」となりました。食味の面でも、一般財団法人日本穀物検定協会の食味ランキングで最上産の「つや姫」が「特A」を獲得するなど、高い評価を受けています。

今年も、気象変動に対応しつつ、「つや姫」栽培におけるスマート農業の導入を普及拡大しながら、高品質・良食味安定生産を推進していきます。



「つや姫」現地研修会（令和3年7月）

## にら産地のさらなる基盤強化を推進します

最上地域のにらは管内全域で生産されており、販売金額は7年連続で10億円以上を達成しています。生産者の高齢化が進む一方で、近年は若手生産者も増えており、新品種や省力機械等、新たな技術の導入が進んでいます。このため、当課では、若手生産者の早期技術習得と組織活動支援、新品種の早期導入に向けた実証事例作成、省力機械の実演会等の開催を通し、最上地域のにらの持続的発展に向けて更なる産地振興を支援していきます。



(左)にら移植機実演会（令和3年5月）、(右)新品種実証事例



## 最上地域の果樹生産を支援します

令和3年度は度重なる強い降霜があり、最上地域のさくらんぼにも大きな被害が発生しました。当課では、霜害対策の徹底、人工受粉等による結実確保、着果管理や樹体管理の適期・適作業の推進により令和4年の安定出荷を支援していきます。

また、最上地域29名の生産者が導入しているさくらんぼ新品種「やまがた紅王」について、最上地域産を消費者に届けられるよう、講習会の開催や園地巡回などで引き続き支援していきます。



「やまがた紅王」剪定講習会（令和4年3月）

## 産地研究室だより

今年度の主な研究内容を紹介します



たらの芽の立ち枯れ症状の軽減・発生防止技術の開発

### ◎野菜産地の拡充

にらの機械化一貫体系により生産量を拡大する技術の開発、トマトの生育診断指標の作成による安定生産技術の開発に取り組みます。山菜では、主要品目であるたらの芽の立ち枯れ症状の軽減・発生防止技術の開発、たらの芽やふきのとうの新品種の開発に引き続き取り組みます。

### ◎果樹の生産振興

さくらんぼ「やまがた紅王」の高品質・安定生産技術の開発、水稻育苗ハウス等を活用したぶどうのコンテナ栽培技術の開発、ドローンを利用した軽労的な融雪剤散布技術の開発に取り組みます。